

KSKO

イマージュ

2015年2月

1991年9月3日第三種郵便承認
毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行



ただ命**命**するだけの**劇薬**、**身体**

触媒となる、

1マイクロの何万分の1の**一滴**を探し

極まっていく

劇団態変第62回公演

『試験管』 作・演出・芸術監督 金満里

2015年

3月19日(木)	18:30
3月20日(金)	19:30
3月21日(土)	13:30 / 18:30
3月22日(日)	14:00

前売り	一般 3,500円	学生 2,500円
	シルバー 3,000円	障害者介助者ペア 6,000円
当日	4,000円	

於：ウイングフィールド 心齋橋
 大阪府大阪市中央区東心齋橋2-1-27
 周防町ウイングス6F

チケット取り扱い◎劇団態変
 TEL /FAX 06-6320-0344
 E-mail taihen.japan@gmail.com
 HP <http://www.ne.jp/asahi/imaju/taihen/>

態変表現の、科学する試験管

金満里

人類は宇宙の摂理にとって必要とされているのか否か、という大命題に向かわざるを得なく、私はここ3年ぐらいの自分の作品で追求している。

それはある意味、二進も三進も行かない、これまでの文明発達や経済発展の行きつく先、が眼前に迫る時代に来たという強い自覚である。

これは私だけでなく、冷静に現実を見ようとすると、そうでしかない、ということぐらい誰でもどこかで気づいていることだと思う。

にも拘らず、大多数を装う情報操作で、まだ発展があるかのような幻想へと我らの日常は覆い尽くされ、邁進するポーズを求められ予定調和的にOK!を、演じさせられている社会しかないのは、何故なのか。

もうたくさんだ！ 心の中では叫んでいるのかいないのか。は、計り知れないが、もうそろそろ、発達や発展は限界だ！とダイレクトに心と体は叫んでもいいのだ。

そこで態変で私は、試験管をタイトルに、科学を問題にしようと思う。

文明発達や経済発展は、科学の進歩の申し子のようなもので、原子力などはモロそうだ。その原発は福島で爆発し放射能が現在も漏れ人への膨大な被害があつても、科学の進歩と経済効率が重要だと言いつち、核を扱う軍事産業への道へと日本列島を染める。

しかし、待てよ。そこまで来て、私はハッ、とした。科学自体が悪いのではなく、寧ろ科学は無色透明で、公平なものなんだ。

化学で言えば、物の本質的な性質を解き明かし分析することで、違った物質どうしの働きや触媒作用を人為的に作り出し化学変化を起こさせることに尽きる。そうすると、科学とは平たくいえば、至るところに在る物事の原理を忠実に表わし、性質を熟知して有効に合成・解体をするだけだ。今患者のように見られている科学は、それを扱う人間がたまたま悪い奴でそいつに間違つた方向で使い始められたある瞬間があつた、のだと。毒を以って毒を制する、という言葉がある。妙薬口に苦しともいう。

そんな風に科学のボタンの掛け違えられたその瞬間を、逆に辿ってみるような科学があればどうなのだろう。これが必要だったのかもしれない。いや、これこそ我々が抜かしていた、大きな落とし穴だったのではないか！ 科学をどこか崇高なもので手の届かない、ノーベル賞ものの玄人の世界と、遠ざけてきた我々の側の問題と気付いた。

誰もが自分のフィールドで科学していいし、科学的思考も行なうべきなのだ。

ならば、私は態変の舞台でやる。身体障碍者の身体表現である態変の身体は、これまでの科学で言えば、出来損ないか突然変異であろう。前者と後者の意味が逆転する要素を持っている我々の身体は、今、最も科学的なものではなからうか。

試験管の中の、1マイクロの何万分の1…の一滴、の妙薬を探す為の、科学する身体表現を探って行きたい。

態変『試験管』 スタッフによる解剖

舞台監督・美術

吉田 顕

試験管、それは中で様々なものを科学反応させた
り保存する為の実験用の筒だ。
試験管立てに整然と並んだ姿はそれだけで美しい。

自分は理工学部出身で、これまでに様々なものを
その中で反応させてきた。

数百本の試験管を使い、自宅でキノコの菌糸を培
養していた事もある。

それぞれの試験管が独立した世界で、八丈島で採つ
てきたヤコウタケと近所の山で採ってきたキノコ
の菌糸が隣に並んでいたりする。

現在でも様々な試験管を所有しているが、中に何
も入れなくなつて10年近くが経つた。

そこへ今回、劇団から新作公演の連絡があつた。
タイトルは「試験管」だと言つ。

態変の役者が試験管の中に入るといふことか。目
的は？

何と結果が予測できない実験なのだろう。
自分はどうな反応の舞台をつくる事が出来る
のか、結果がどうなるのか、今から楽しみでなら
ない。

音 かつぶじたまこ

大変なことになった。態変の公演で音を作る
ことになったのだ。

タイトルは「試験管」。

なんだ、この限りなく抽象的な感じ。(具体
的とも言えるか?)

稽古場で、パフォーマー達の稽古を観た。
6粒の素粒子もしくは細胞が転がり出す。う
ごめいている。

ここは試験管の内側なのか、外側なのか。見
ているのか、見られているのか。

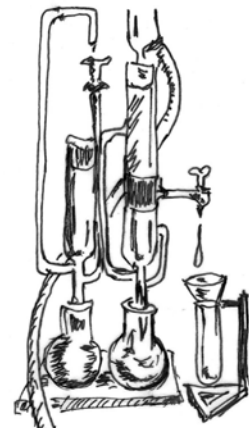
「試験管」は呼吸を続ける。

内側はやがてめくられて外側になるかもしれな
い。痛みを伴いながら。

こんな時代に希望を求め、世界を切り開く為
の痛みなのか?

「命」を、「存在」を客観的に解明する試みだ
と金満里は言つ。

さて、この世界にどんな音を置こうかしら。



黒子

七井 悠

演出の金満里から『試験管』の話聞いた時、最
初に考えたのは、黒子は舞台でどうあるべきなの
だろうか?ということだった。

劇団態変で黒子が舞台でしていることは、役者の
介護と舞台袖の裏側での大道具・小道具等の取り
回しである。

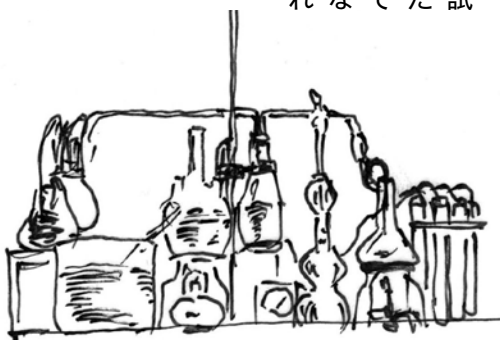
しかし、単なる道具係ではない。黒子は役者の体
も触る。抱える、起こす、引きずる、立たせる……。
微細な障碍者の身体に触れること、その行為がす
でに舞台上で役者が演じる表現と地続きになつ
ている。

役者が舞台上で、黒子が舞台袖の中で同時に作品
を進めてゆくのが態変の舞台なのである。

今回の『試験管』は態変の表現を客観的に捉え直
して、より追求をする作品だ(と個人的には理解
している)。

となると、黒子のあり方も役者の表現に伴って変
わらざるを得ないのではないか?

ウィングフィールドは『試
験管』のごとく凝縮された
空間だ。その過激な実験で
「ただそこに居る」のではな
い黒子の居方を追求できれ
ば、と思つている。



走れ「を」と「で」で

だいたい おちやめ

金満里は激怒した。この世界で夥しく積み重ねられ続ける愚行暴虐に。それを見ぬふりするへらへら笑いの群れに。反知性主義って云うんでしょ、モノゴトをきつちり考えることを嘲笑うようなこの風潮。もう我慢がたまらん。宣戦布告だ。

障害者だからとものを考えてないふりはきつぱりもやめる。健常者のようなペラペラとよく回る舌で言葉をこねまわすような思考表現は不得手でも、障害者は障害者のやり方で世界に切り込んでいく。地べたからの世界観で体当たりで表現していく。そういう科学があってもよい。

障害で科学をやる。身体で科学を表現する。そういうことをやってみたくなつて金満里は最新作に「試験管」なる題名を付けたのだ。

こんな題名から君たちはすぐに薄気味悪い人体実験とか試験管の中での生命操作とか想像するだろうということは折り込み済みだよ。だけど、態変がこれまで一度だって猟奇方面の期待に応えたことないでしょ？

ということ、着々と作品を創っていたんだが…再び金満里は激怒した。

役者どもがなにやら勘違いをやらかしていたことが発覚したのだ。

脳性麻痺という障害はこういう起源でこういう仕組

みで、四肢欠損という障害は…なんてことをDMのための文章に書いてよこして来た！ 違うだろ！ それ！ 障害を科学でどうたら、身体を科学でどうたら、っていうのは我々の道じゃない。

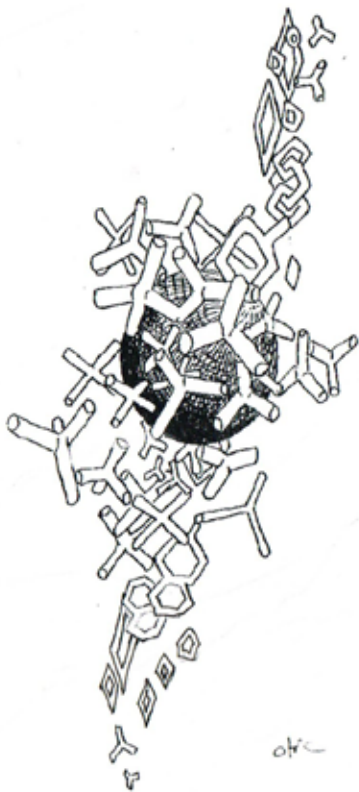
助詞を軽んじてはだめだよ。

○障害で、科学をやる。 ×障害を、科学で、探る。

○身体で、科学を、表現する。 ×身体を、科学で、表現する。

「を」と「で」の取り違えにご用心。

もういっぺん知性を磨きなおして、心に響く科学を舞台上に表現すべく、今、ギタギタの精進まつしぐら。



「試験管」ここをチェック！

①なぜ今、科学なの！？

劇団態変は近作『Over the Rainbow-虹の彼方に』で宇宙に捨てられた孤独な人類、という着想から未来を見つめ、『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』では自然を畏怖し生きるチベットの人の智慧に学び、現代社会を身体を通して凝視し続けてきました。本作ではこれらの有機的なモチーフから一転、無機質な物体に対峙します。人間の主観や我欲で色付けをせず、客観的に真理を探る「科学」は、態変の抽象身体が社会を凝視する試みと根底で繋がっています。それは、ただ命（いのち）する、というたった一つのことを求めて止まない、態変の身体だからこそ表現できる「科学」なのです。

②態变的実験音楽！？

今回の音楽は、音作家かつふじたまこさんが、劇薬のような態変パフォーマーの身体の内側に耳を澄ませ、その命の向こうにある音を導き出すようにして作られます。電子音や、自然や街の中にある様々な音のかけらの集合体として生まれる音楽が、態変の身体と接触した時に起こる反応は未知数。

③舞台空間は、体内記憶を呼び起こす！？

会場であるウイングフィールドは、演劇という手法を通じ表現する事を、愛と辛辣さをもって育ててきた大阪の小劇場の砦。数多の芝居屋魂がこびりついたその場にあるならば、何か人をびっくりさせないと収まらない！ 試験管そのものであるかのような密室的空間は、身体の内側を見つめ人間の深層心理をめぐり続ける演出家によって反転させられ、かつて体内にいた時の遠い記憶とともにうねりだすような感覚を覚えるかもしれません。劇団旗揚げ当初、「生かせる」と蠢く塊であったものたちの爆発的なエネルギーの粒子も、時空を超えて飛び交っている！？

演出補による「試験管」稽古日誌

劇団態変の稽古は、毎回、ワークショップ期、作り込み期、通し稽古期という3段階を経る。

作品の全貌が見え、俄然勢いが増すのは、もちろん通し稽古期だ。しかし、ワークショップ期に役者連が膝つきあわせ、作品の概念や方向性をいかに深く掘り下げるかに全てはかかっていると言っても過言ではない。

演出ー「上月、科学ってどういうことや？」

上月ー「科学……何かよく分かりません」

演出ー「上月、いつも科学やってるやんか。料理も科学やで。味加減とか、身体の動かし方とか」

※役者上月は料理が大の得意である。脳性麻痺による手指の不随意運動を代償しながらの包丁さばきや、微妙なさじ加減など（見ているとハラハラするが）、自身のバイオメカニクスを熟知した調理の所作は圧巻であり、「カガク」してる。

今回ワークショップ期で交わされた会話は、教育から切り離され、知識を積み重ねていく伝統的な科学からは遠く離れた場所にいると自分自身を捉える傾向のあった役者連の日常生活の中には、実は、「不思議」や「なるほど」が詰まっているのではないかと、それこそが科学の根源なのではないかと、いかに「科学」を自分たちに引き寄せるか。というところから始まっていたように思う。

作品制作過程において、一貫して、演出は「言葉」で演出付けする。それは、模倣による演技指導ができないという、演出家の身体的制約の為でもあるが、役者のボディメカニクスに基づいた「言葉」である。表現したい体の動きや、背景、理論を徹底的に言語化する事。具体的な身体動作の模倣に頼らず、言語で伝えるという、根気のいるこの演出方法によってこそ抽象的なイメージをそのまま伝える事ができるのではないだろうか。

—実際にはイメージを素材そのまま手渡しにされ、頭の中に「？」が何個も浮かぶという事も多々ある。先日、新人黒子に、「役者を出す幕介錯を、20種類の蛋白質が鎖になって出てきてるようにして！」と演出に言われたんですけど、どうしたら良いですか？」と聞かれ、ああだこうだと想像する過程はなかなか創造的であった。—

長年の劇団態変の演出スタイルのなかで、できるだけ生のままイメージを手渡すための言葉をチョイスする演出側の仕事と、素材そのままに手渡されたイメージを何とか料理し、食べようともがく人たち（役者や裏方）の仕事の継続により「言語化」というアプローチの方法論が蓄積されていたように思う。

—曇りのない目で、日常生活や身体を見つめ直してみる事。新しく気付いた事を、改めて言語化する事—
そうした取り組みの連続で今回の作品の稽古が成り立っている。

情報誌 イマージュ 最新刊 vol.61 2015年春号

1冊500円(送料込み) / 年間購読(年3回発行)1500円 ※送料込み

本誌は1994年8月創刊。劇団態変の定期刊行物として、20年めを迎えます。舞台上に描き出す態変と金満里の世界観、またその製作現場をコアにしつつ、同時代に各々の場所で魂を持ち発信されている言葉に耳を傾け交感しあう場として、コツコツ発刊を続けております。バックナンバー等詳細はホームページからご覧ください。



61号 特集■レイシズムにNo!

「人種差別」を肯定し拡大しようとする悪意を、世界の人々はレイシズムと呼ぶ。

「人種差別」という用語は、国連の人種差別撤廃条約によると、こんな意味を持つ。

人を、区別したり、排除したり、制限したり、(その人を差し置き他を)優先したり……そんなことを、その人が生まれついた人種、肌の色、家系、民族(その人が属する文化・風習)、を根拠におこなうこと……そういうやり方で、その人が人間としての権利と根本的な自由を平等な立場で実感し享受し行使する、そのことを、妨げたり損なったりすること。それをわざとやっても、結果的にそうってしまったのでも、そのおこないが「人種差別」だ。

つまり、「人種差別」を撤廃するとは、こんなにも人間を大切にすることだったんだ。

この条約に日本は加入しているながら、法整備は遅れ、特定の少数者に向けた攻撃は日々繰り返されている。創刊から20年、異文化の交差点であろうとし続けてきたこの小さな冊子から、レイシズムに、そしてレイシズムの蔓延・凶悪化を許す社会にきっぱりとNoを発信したい。

それは少数者だけの問題ではなく我々みんなの人権を脅かすものだから…。

クロスオーバー談義●中村一成×金満里 「ヘイトの嵐を踏み越え そして、その先へ」 他、読み物多数。

◇態変物品販売中◇

30周年記念パンフレット

A4版26ページ 1,000円(送料215円)

旗揚げ30周年の集大成として製作したパンフレット。

『Over the Rainbow - 虹の彼方に』金満里による上演台本、態変裏方による黒子台本を初公開。

態変の30年間のエッセンスがギュッと詰まった態変ファン必携の一冊、残部僅少!

DVD「ルンタ ~いい風よ吹け」 NEW!

2014年10月 HEPホール

険しい岩山を刻んだ深い谷をいっばいに吹き抜ける風が、色とりどりの旗をちぎれそうにはためかせる。そこにあるのは、自分だけの安寧を願う心とはかけ離れた思い。風の馬にのって、一刻も早く、願いよ世界を駆け巡れ!

劇団態変が現代に心をこめて巻き起こす一陣の風。ウォン・ウィンツァン+山本公成による即興演奏と共に…

3,000円 間もなく完成 予約受付中

作品DVDは他に「一世一代福森慶之介~また何処かで」「虎視眈眈」「天にもぐり地にのぼる」「ミススマシ」「Over the Rainbow 虹の彼方に」「寿ぎの宇宙」を販売中

Tシャツ「ルンタ」

ルンタ公演ノベルティグッズ

2000円 5枚限定販売! Lサイズ(目安:一般男性向け) / 160サイズ(目安:一般女性向け)

購
入
方
法

同封の郵便振替用紙に下記の事項を記入して、ご送金をお願いします。

口座番号	00920-8-320343
加入者名	イマージュ・劇団態変
振込人住所・氏名 通信欄	送付ご希望の住所・氏名・電話番号・よろしければメールアドレス お申し込みされる物品名、数量

インターネットからお申し込みいただけます。詳細は態変HPへどうぞ!

劇団態変 賛助会員制度へのご支援を！

2015年度、劇団態変 賛助会員制度へのご支援をお願いします！

劇団態変は、活動基盤をめぐる情勢の変化を受け、2012年4月より賛助会員制度を設けております。劇団態変のパフォーマーたちが主体となり、行政からの補助金を受けずに運営を行ない、芸術創造活動を行っていく試みは、この制度に関わる皆様のお陰で、なんとか継続することが出来ております。

この制度によって

- ◎大勢の人が集まり稽古を行う、また企画を行うための「場」を維持すること
- ◎市民一人一人の生活と直接に関係し、「芸術を生み出す一享受する」という一方向の関係を越えた、相互に作用しあえる豊かな芸術の在り方へ向かうこと

が可能となっております。

2012年の制度発足以来、年2～3回のペースで公演を行ない、昨年3月の30周年記念公演では、国内最高動員数671名を迎えての公演を行ない、その後も

常に最尖端の芸術創造を目指して、活動を継続しております。

しかしながら、依然として劇団運営の危機は続いております。私たちは、世界に類を見ない芸術で、社会に風穴を開け続けていることにあらためて誇りを持ち、この創造の火を根絶やしにしないよう、ご支援のお願いを続けてまいる所存です。

劇団態変の芸術創造は、依然として活発に行なわれており、その活動に興味を持ち伴走してくれるスタッフも徐々にではありますが、増えてきていますが、この制度も4年目を迎え、年々、賛助会員となって下さる方が減ってきている状態です。

今後の劇団の活動として、大阪以外の土地でも態変の表現を観ていただきたい、と強く思っております。皆様の方で、劇団態変の活動を支えていただけないでしょうか？

何卒、よろしくお願い致します。

賛助会員制度の要項

会員の種類・特典

[会員の種類]

個人会員 年会費 一口5000円 / 法人会員 一口20000円

[会員特典]

- ・会員証発行 毎年絵柄が変わる、会員証をお渡しします。
- ・公演チケット賛助会員割引
個人会員様はチケット料金から500円割引
法人会員様は御招待券を一口につき一枚進呈させていただきます。団体でのご来場の場合、団体様向けの特典もごございます。(詳細は公演時の受付にてお問合せください。)
- ・当該年の態変公演ダイジェスト映像DVDを、年1回進呈

ご入会方法

①郵便振替

このDMに同封の郵便振替用紙にご芳名と送付先を記入いただきお振込をお願いします。差し支えなければ、お電話番号、メールアドレスも合わせてお教えてください。

②PayPalで

メールアドレスとクレジットカードをお持ちのお客様は、PayPalでのお支払いをご利用いただけます。劇団ホームページからお入りください。劇団HP → 「劇団態変」で検索し、日本語トップページから、「賛助会員募集」へと辿ってください。

更新手続きについて

会員の有効期間は年度末までとなります。次年度の更新手続きにつきましては、別途ご案内させていただきます。

劇団態変第62回公演

『試験管』

1991年9月3日 第三種郵便承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

開演日時

- 3月19日(木) 18:30 ★アフタートークあり
- 3月20日(金) 19:30
- 3月21日(土) 13:30 / 18:30
- 3月22日(日) 14:00 ★アフタートークあり

会場

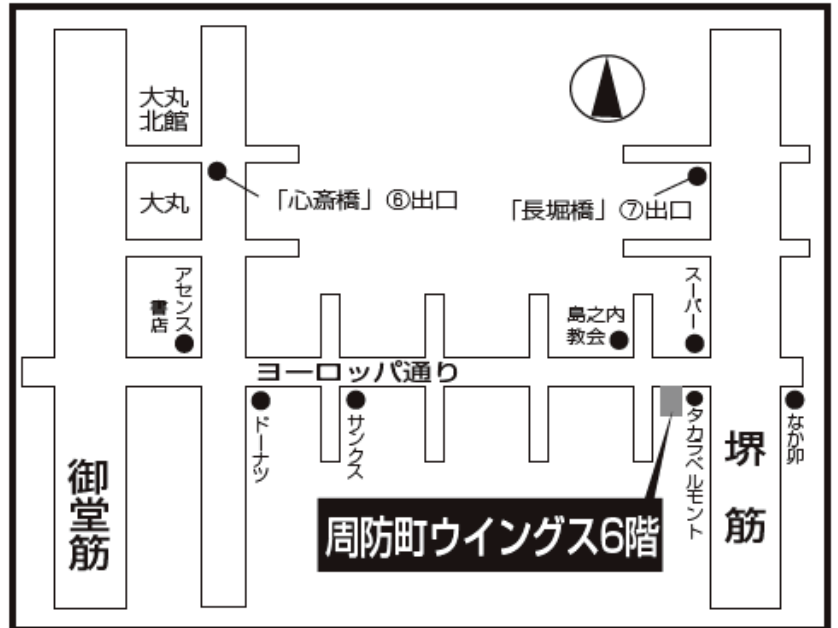
ウイングフィールド
 大阪府大阪市中央区東心斎橋2-1-27
 周防町ウイングス6F

チケット

- (全席自由 日時指定)
- 前売 一般 3,500円 学生 2,500円
 - シルバー 3,000円
 - 障害者介助者ペア 6,000円
 - 当日 4,000円

ご予約 / お問い合わせ

態変 office イマージュ
 TEL / FAX 06-6320-0344
 E-mail taihen.japan@gmail.com
 HP <http://www.ne.jp/asahi/imaju/taihen/>



- 地下鉄堺筋線「長堀橋」駅⑦出口南へ3分。
- 地下鉄御堂筋線「心斎橋」駅⑥出口東南へ10分。

受付はビルの5階にて、開演1時間前から開始
開場は開演30分前

★車椅子のまま観劇される方は、会場の都合上先行入場いただきます。
開演の40分前までに受付までお越し下さい。(要予約)

.....

上演後、金満里とゲストによるアフタートーク開催します。ご予約はどうぞお早めに！

19日 18:30 の回 ゲスト：内田樹氏

凱風館館長・神戸女学院大学名誉教授。専門はフランス現代思想、武道論、教育論など。著書に『寝ながら学べる構造主義』『私家版・ユダヤ文化論』『日本辺境論』など多数。
 コメントを寄せていただきました。
 「病的な出不精なので、演劇も映画もコンサートもほとんど観に行きません。今回は大学院の教え子からの依頼なので、アフタートークにうかがいます。あまり気の利いたことは申し上げられないと思いますが、どうぞご容赦ください」

22日 14:00 の回 ゲスト：東學氏

墨絵師。日本の演劇・舞台シーンにおいて数多なるポスターデザインを手がけてきた異端的アートディレクター。絵のテーマは一貫して「女」。

.....